桜井市埋蔵文化財
発掘調査報告書　第42集

桜　井　市

平成25年度国庫補助による
発掘調査報告書

安倍寺跡第21次調査

2015. 3. 31

桜 井 市 教 育 委 員 会

桜井市埋蔵文化財発掘調査報告書　第42集

桜井市教育委員会

桜　井　市

平成25年度国庫補助による
発掘調査報告書

2015. 3. 31

桜 井 市 教 育 委 員 会

序

私たちの桜井市は奈良盆地の東南部に位置し、市域の約7割を占める山地より流れ出る粟原川、寺川、初瀬川、巻向川等の清流を集めた大和川がほぼ東西に横断し、この地に生きる多くの人々に限りない豊かさを与え続けています。

市内には大和川の北側に芝遺跡、纒向遺跡、箸墓古墳、南側には大福遺跡、吉備池廃寺、桜井茶臼山古墳、メスリ山古墳など全国的にも注目される貴重な文化遺産が多く分布しており、この地域が古代におけるわが国の中心地であったことが知られています。

桜井市ではこのような遺跡を保護し、啓発するための事業のひとつとして市内遺跡の調査・保存に力を入れており、本書には平成25年度に桜井市が国・県の補助を受けて実施した発掘調査のうち安倍寺跡第21次調査の成果をおさめております。本報告書によって貴重な歴史遺産に対する理解と愛着を深めていただき、調査した資料が広く活用されることとなれば当教育委員会としても望外の喜びであります。

最後になりましたが、現地調査にあたりまして協力していただいた地主及び地元協力者の方々、指導・助言を頂いた多くの関係諸機関の方々、また、酷暑、極寒のなか作業に従事して頂いた作業員の方々や学生諸君、遺物の整理・報告書の作成に協力して頂いた整理員の方々に深くお礼を申し上げ、序の言葉にかえさせていただきます。

平成27年３月31日

桜井市教育委員会
教育長　石　田　泰　敏

例　　言

1．本書は、平成25年度国庫補助事業として桜井市教育委員会が実施した市内遺跡の埋蔵文化財発掘調査の報告書である。本報告書では、安倍寺跡第21次発掘調査の成果を掲載している。

2．調査主体：桜井市教育委員会

教育長　雀部克英（～平成25年８月30日）石田泰敏（平成25年10月１日～）、

事務局長　田井中正行、事務局次長（文化財課長事務取扱）　竹田勝彦、

桜井市纒向学研究センター所長　寺澤薫、

文化財係長　井前貴雄、調査研究係長　橋本輝彦、主任　松宮昌樹、福辻淳、丹羽恵二、

技師補　森暢郎

臨時職員　木場佳子、杉山真由美、三沢朋未、西岡恵美

3．調査担当者　杉山真由美、三沢朋未

4．調査補助員：小島宏貴

5．調査作業員：南幸弘、森貞之、中西智子、甲谷郷美、北島弘

6．整理作業及び報告書作成：上記補助員及び吉川晴美、小松令子

7．本書は杉山が執筆し、編集は三沢がおこなった。

8．本書における方位・座標は世界測地系によるものを示す。

9．本書記載の遺物は、土師質のもの－白抜き、須恵器－黒塗り、瓦－網目とした。

10．図版の遺物番号は、該当する各節の図の遺物番号に該当する。

11．出土遺物をはじめ、調査記録の一切は桜井市教育委員会で保管している。活用されたい。

目　　次

第１章　平成25年度の国庫補助による発掘調査…… 1
第２章　安倍寺跡第21次発掘調査報告…… 3
図版
抄録

挿　図　目　次

図１　桜井市の位置…… 1
図２　平成25年度国庫補助事業による調査位置図（S=1/50,000）…… 2
図３　調査区周辺地図（S=1/4,000）…… 3
図４　調査区　平面・断面図（S=1/100）…… 4
図５　SD-101北西肩遺物出土状況（S=1/20）…… 4
図６　遺構断面図（S=1/40）…… 7
図７　調査区出土土器・土製品（S=1/3、20のみS=1/6）…… 8
図８　調査区出土瓦①（S=1/4）…… 9
図９　調査区出土瓦②（S=1/4）…… 10
図10　調査区出土瓦③（S=1/4）…… 11

表　　目　　次

表１　平成25年度国庫補助による発掘調査一覧…… 1
表２　調査区壁断面図の土色一覧…… 5
表３　出土遺物観察表…… 13

図　版　目　次

図版１　安倍寺跡第21次調査（１）
調査区西半 遺構検出状況（西より）
調査区東半 遺構検出状況（東より）
SD－101最上層 遺物出土状況(北より)
図版２　安倍寺跡第21次調査（２）
SD－101 土層断面（南より）
調査区西半 遺構完掘状況（西より）
調査区東半 遺構完掘状況（東より）
図版３　安倍寺跡第21次調査（３）
SP－103 土層断面（北より）
SP－104 土層断面（北より）
SP－105 土層断面（北より）
SP－111 土層断面（西より）
SP－115 土層断面（北より）
SP－117 土層断面（東より）
SP－118 土層断面（東より）
SK－119 土層断面（北西より）
図版４　安倍寺跡21次調査（４）
SK－113･SP－112 土層断面（北より）
SK－116 土層断面（東より）
調査区全景（東より）
図版５　安倍寺跡第21次調査（５）
出土遺物①
図版６　安倍寺跡第21次調査（６）
出土遺物②
図版７　安倍寺跡第21次調査（７）
出土遺物③

第１章　平成25年度の国庫による発掘調査

１．桜井市の位置と環境

桜井市は、奈良盆地の東南部に位置する人口およそ６万人、面積98.93㎢の都市である。市域の北西部は奈良盆地東南部にあたる平野部が広がっており、北東部から東部・南部にかけては大和高原や龍門山地などの山地で構成されている。平野部は、大和川の本流である初瀬川とその支流である寺川をはじめとした河川の堆積からなり、古くから農耕地として利用されてきた。付近は、奈良盆地と宇陀・吉野地域との結節点にあたっており、市内には複数の古道が通っているなど古くから交通の要衝であったと考えられ、市域には多くの遺跡が分布している。

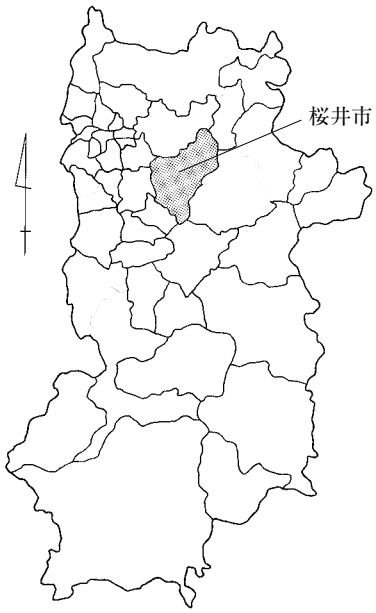


図１　桜井市の位置

桜井市内では、いくつかの遺跡から旧石器時代の遺物が出土しており、縄文時代については遺構を伴う遺跡の存在が知られていることから、古くから生活の痕跡を窺い知ることができる。市内で人の活動が活発になったのは弥生時代以降であり、絵画土器を出土した芝遺跡や袈裟襷文銅鐸を出土した大福遺跡などが平野部に形成されている。古墳時代前期には纒向遺跡が出現し、出現期古墳である箸墓古墳を含む纒向古墳群が登場する。その他にも、桜井茶臼山古墳やメスリ山古墳といった大型前方後円墳が築造されており、古墳時代後期から飛鳥時代にかけては赤坂天王山古墳や文殊院西古墳といった古墳が多く築造されている。山田寺跡や安倍寺跡、百済大寺と推定されている吉備池廃寺など、大王家や古代氏族と密接な関係をもつ古代寺院がいくつも存在している。このように桜井市には、古代国家の形成期に重要な役割を果たしたと考えられる遺跡が多数みられる。

２．平成25年度の発掘調査

平成25年度に実施した国庫補助による発掘調査は２件である（表１）。このうち、安倍寺跡第21次調査は個人住宅建築に伴う調査であり、纒向遺跡第180次調査は範囲確認調査であった。本書ではこれら２件のうち安倍寺跡第21次調査の成果について報告している。

表１　平成25年度国庫補助による発掘調査一覧

地図No.	調査名称	所在地	期間	面積	主な遺構・遺物	担当者
1	纒向遺跡第180次調査	辻56-1	10月30日～２月24日	205㎡	建物跡、溝	森
2	**安倍寺跡第21次調査**	**安倍木材団地１丁目12-16、-17、-18**	**11月６日～11月30日**	**60㎡**	**柱穴群、溝、瓦**	**杉山・三沢**

図２　平成25年度国庫補助による調査位置（Ｓ＝1/50,000）

調査風景写真

第２章　安倍寺跡第21次発掘調査報告

１．はじめに

安倍寺跡第21次発掘調査は、桜井市安倍木材団地１丁目12－16、17、18の一部で実施された、個人住宅建築に先立つ発掘調査である。調査地は、七つ井児童公園の南、安倍寺史跡公園（安倍寺跡）の北西に立地する。安倍寺跡の北方には、古墳時代中期～後期の集落跡や玉造りの工房跡が見つかった谷遺跡が立地し、北西には百済大寺と目される吉備池廃寺が立地する。また、周辺には、文殊院西古墳や谷首古墳といった終末期古墳が存在する。飛鳥時代の苑池状遺構や大型建物を検出した上之宮遺跡や、中山遺跡など、古代の遺跡が多く見られる。

安倍寺跡の周辺の調査では、今回の調査地の南側で実施された第８～10次調査で石垣状遺構と溝が検出されており、安倍寺の西面大垣であると想定されている。今回の調査地から西に90mの場所で実施された第７次調査では石垣状遺構は見つかっていないが、検出した東西溝が安倍寺の北限にあたると考えられている。今回調査を実施する範囲は、大垣の延長部分に当たる可能性があり、また安倍寺の北限付近であるとも考えられ、安倍寺の範囲を確定する上で重要な箇所である。

２．調査の方法と基本層序

調査地内の南寄りに南北３ｍ×東西20mのトレンチを設定した。基本層序は造成土（図４の１層）、旧耕作土（図４の２～20層）、古代より前の河川推積層（図４の73～79層）、地山層（図４の80～84層）となっている。旧耕作土まで重機掘削を行い、それ以下の掘削を人力で実施した。調査区中央では、過去の建物の基礎が調査区を南北に横断するように露出した。これを破壊することができなかったた

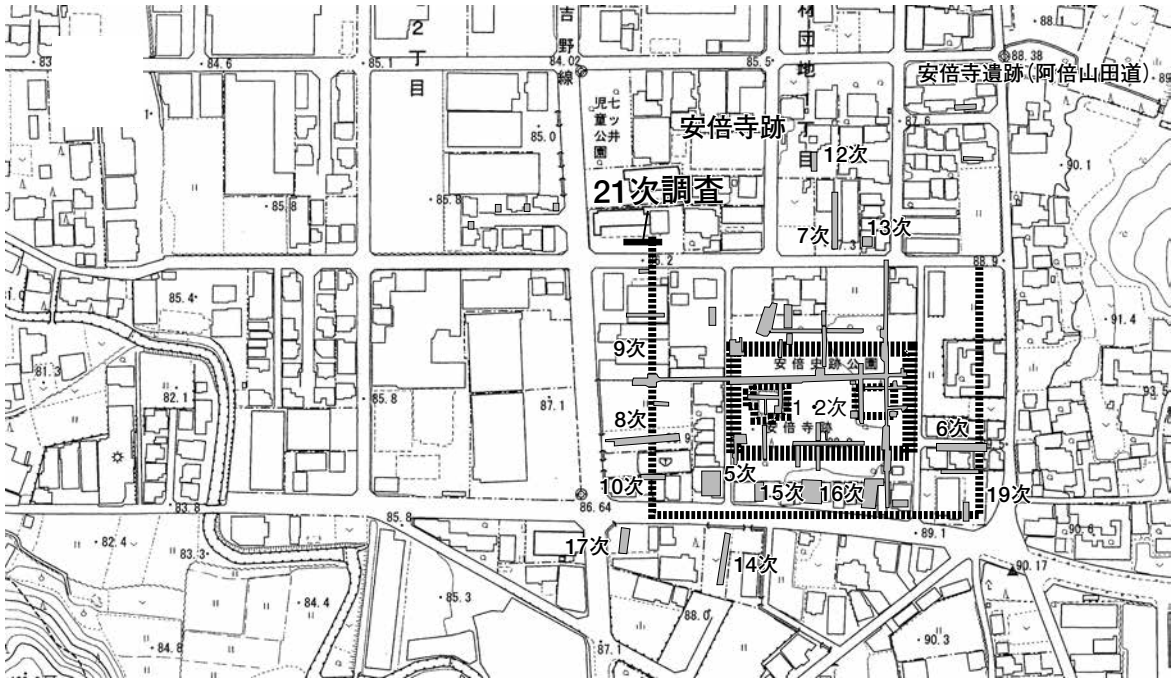


図３　調査区周辺地図（Ｓ＝1/4,000）

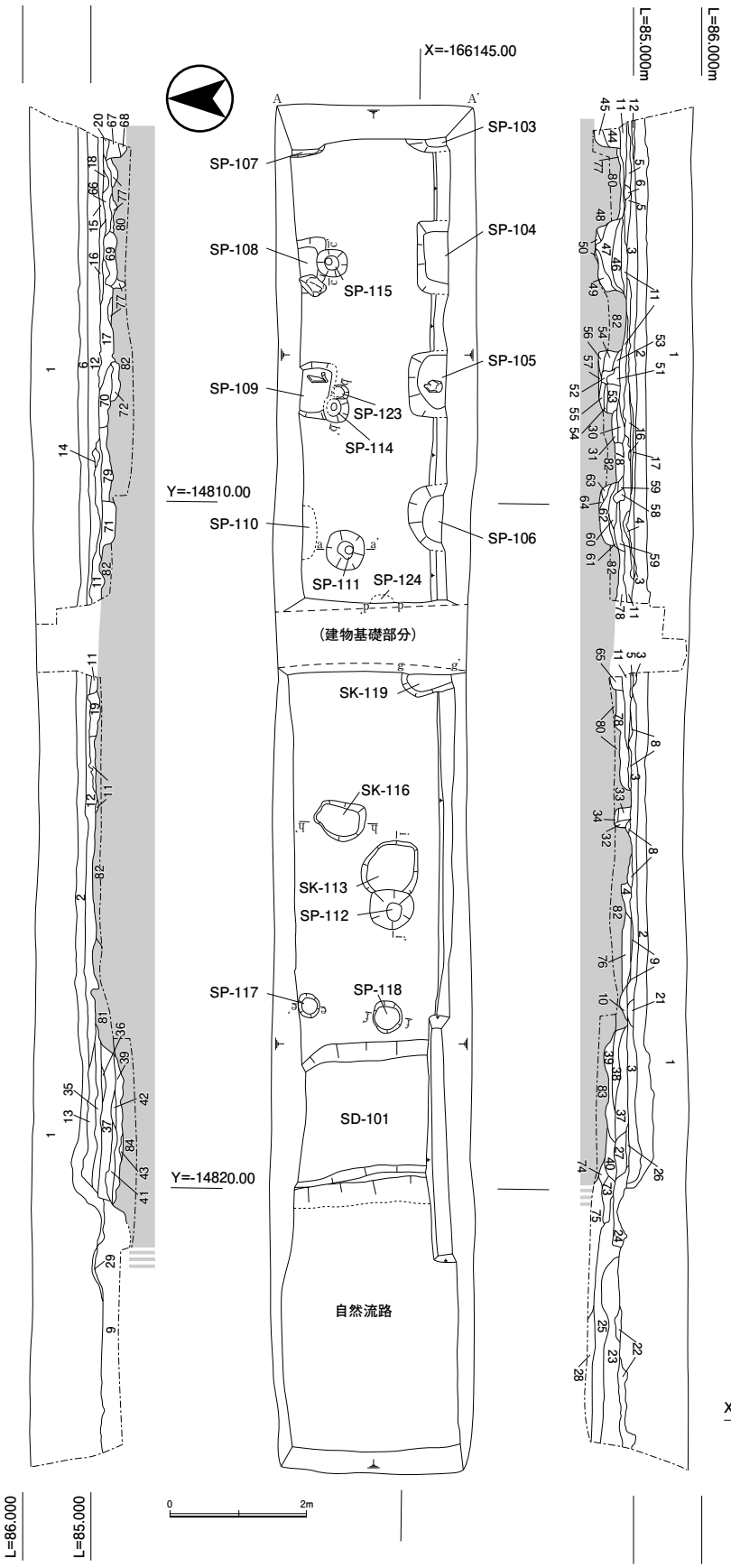


図４　調査区　平面・断面図（Ｓ＝1/100）

図５　SD－101
北西肩遺物出土状況（S＝1/20）

表２　調査区壁断面の土色一覧表（１）

№	土色・土質	備考
1		盛土・造成土
2	2.5GY3/1　暗オリーブ灰　粘土～シルト 僅かに中粒砂を含む	旧耕作土
3	7.5Y4/2　灰オリーブ　中粒砂混じり粘土	旧耕作土
4	2.5Y4/3　オリーブ褐　中粒砂混じり粘質シルト 少量のマンガンを含む　上面に鉄分の層が展開	旧耕作土
5	９と同様　粒子の向きが異なる	旧耕作土
6	10YR5/1　褐灰　中～粗粒砂混じり粘質シルト 遺物を含む　鉄分沈着する	旧耕作土
7	5Y5/1　灰　粘質シルト 鉄分沈着著しい	旧耕作土
8	12と同様　一部グライ化	旧耕作土
9	5Y5/2　灰オリーブ　粘質シルト　粗粒砂を少量含む 鉄分沈着著しい	旧耕作土
10	5Y5/2　灰オリーブ　粗粒砂混じり粘質シルト　細礫を含む	旧耕作土
11	2.5Y4/1　黄灰　粗粒砂混じり粘質シルト マンガン、多量の遺物を含む　鉄分沈着する	旧耕作土
12	7.5GY4/1　暗緑灰 粘質シルト	旧耕作土
13	10Y5/2　オリーブ灰　シルト 遺物を含む	旧耕作土
14	2.5Y5/2　暗灰黄　細礫混じりシルト 鉄分沈着する　一部グライ化	旧耕作土
15	2.5GY4/1　暗オリーブ灰　細～中粒砂 少量の遺物を含む　鉄分僅かに沈着する	旧耕作土
16	7.5Y4/1　灰　シルト～中粒砂 礫を含む　鉄分沈着する	旧耕作土
17	10YR3/1　黒褐　細粒砂　5Y4/1　灰のブロックを含む 径５㎝大の礫、少量の炭を含む、鉄分沈着する	旧耕作土
18	5Y4/1　灰　中粒砂と2.5Y5/1　黄灰　細～中粒砂が半々 細礫を含む　鉄分沈着する	旧耕作土
19	63と同様　礫を多量に含む	旧耕作土
20	2.5Y5/1　黄灰　粘質シルト～細粒砂 少量の遺物を含む　鉄分沈着著しい	旧耕作土
21	7.5GY4/1　暗緑灰　粘質シルト	素掘溝
22	2.5GY4/1　暗オリーブ灰　粘質シルトと7.5Y5/3　灰オリーブ　粘土～細粒砂が交互に堆積	自然流路 （近世）
23	2.5Y3/1　黒褐　粘質シルト	自然流路 （近世）
24	10Y6/2　オリーブ灰　細礫混じり粘質シルト 締まり悪い	自然流路 （近世）
25	7.5GY4/1　暗緑灰　粘質シルトと10Y6/2　オリーブ灰 粘質シルトが交互に堆積	自然流路 （近世）
26	2.5GY4/1　暗オリーブ灰　細粒砂混じりシルト 遺物を含む	自然流路 （近世）
27	2.5GY4/1　暗オリーブ灰　中～粗粒砂混じり粘質シルト 遺物、炭を多量に含む	自然流路 （近世）
28	5G4/1　暗緑灰　細礫混じり粘質シルト 径10㎝前後の礫を多量に含む	自然流路 （近世）
29	5Y3/2　オリーブ黒　シルト 粘性あり　腐植土	自然流路 （近世）
30	10Y3/1　オリーブ褐　細～中粒砂 径５㎝大の礫を含む　鉄分沈着著しい	近世以前の 遺構埋土
31	2.5Y3/2　黒褐　細～中粒砂 鉄分沈着する	近世以前の 遺構埋土
32	－	風化礫
33	10YR5/1　褐灰　粗粒砂～細礫 ～10YR6/3　にぶい黄橙　粘質シルトブロック	近世以前の 遺構埋土
34	10YR5/1　褐灰　粗粒砂 細礫を含む	近世以前の 遺構埋土
35	10Y5/1　灰　粘質シルト　10YR6/3　にぶい黄橙の粘質シルトブロック、細礫を含む	SD－101埋土
36	7.5Y4/1　灰　細粒砂　粘性あり　5Y5/1　灰のシルトブロック、細礫、多量の遺物を含む	SD－101埋土
37	7.5Y5/1　灰　細粒砂 微細な遺物・炭を含む	SD－101埋土
38	2.5Y6/1　黄灰　シルト～細粒砂 遺物、炭を含む　鉄分沈着著しい	SD－101埋土
39	7.5Y4/1～5/1　灰　細粒砂 粘性あり　ラミナを形成	SD－101埋土
40	7.5GY4/1　暗緑灰　細～粗粒砂 細礫多量に含む	SD－101埋土
41	7.5Y4/1　灰　シルト～中粒砂 礫を含む　鉄分沈着する　遺物を含む	SD－101埋土
42	10Y4/1　細粒砂 多量の礫を含む	SD－101埋土
43	5Y3/1　オリーブ黒　細～中粒砂 鉄分沈着する	SD－101埋土
44	2.5Y4/1　黄灰　シルト～粗粒砂　2.5Y5/2　暗灰黄の粘質シルトブロックを含む　鉄分沈着著しい	SP－103埋土
45	10YR4/1　褐灰　中粒砂混じり粘質シルト　2.5Y5/2　暗灰黄の粘質シルトブロックを含む	SP－103埋土
46	2.5Y3/2　黒褐　中粒砂混じり粘質シルト　2.5Y6/6シルトブロック（小）、径10㎝の礫、遺物を含む　鉄分沈着著しい	SP－104埋土
47	10YR3/1　黒褐　粗粒砂混じり粘質シルト　2.5Y6/6シルトブロック（小）、径10㎝の礫、遺物、炭を含む　鉄分沈着する	SP－104埋土
48	10YR4/1　褐灰　細～中粒砂 粗粒砂のブロックを含む	SP－104埋土
49	2.5Y4/1　黄灰　中粒砂混じり粘質シルト　2.5Y6/6のシルトブロック（小）、遺物を含む　鉄分沈着する	SP－104埋土
50	2.5Y4/2　暗灰黄　細～中粒砂 少量の遺物・炭を含む	SP－104埋土
51	2.5Y7/3　浅黄　粘質シルトと2.5Y5/3細粒砂が混在 径５－10cmの円礫を含む	SP－105埋土
52	2.5Y7/3　浅黄　粘質シルト 少量の細礫、遺物を含む　鉄分沈着する	SP－105埋土
53	10YR5/2　灰黄褐　中粒砂混じり粘質シルト　2.5Y5.3のシルトブロック（小）、少量の遺物・炭を含む　鉄分沈着する	SP－105埋土
54	2.5Y4/2　暗灰黄　粘質シルト　多量の中～粗粒砂、10YR6/6粘質シルトのブロック、遺物、炭を含む　鉄分沈着する	SP－105埋土
55	2.5Y4/1　黄灰　粗粒砂混じり粘質シルト 鉄分沈着する	SP－105埋土
56	2.5Y3/2　黒褐　シルト～粗粒砂 僅かに鉄分沈着する	SP－105埋土
57	2.5Y4/1　黄灰　シルト～粗粒砂 僅かに鉄分沈着する	SP－105埋土
58	28と同様	SP－106埋土
59	10YR4/1　褐灰　シルト～中粒砂 径５㎝大の円礫を少量含む　鉄分沈着する	SP－106埋土
60	10YR5/2　灰黄褐　中粒砂混じり粘質シルト 少量の遺物・炭を含む　鉄分沈着する	SP－106埋土
61	10YR4/1　褐灰　中粒砂混じり粘質シルト 鉄分沈着する	SP－106埋土
62	2.5Y4/1　黄灰　粗粒砂混じり粘質シルト 径５㎝以下の礫を含む　鉄分沈着する	SP－106埋土
63	2.5Y3/2　黒褐　中粒砂混じり粘質シルト	SP－106埋土
64	2.5Y5/2　暗灰黄　中～粗粒砂	SP－106埋土
65	10YR4/1　褐灰　細粒砂～細礫 鉄分沈着する	SP－119埋土
66	2.5Y4/1　黄灰　シルト～中粒砂 鉄分沈着著しい	SP－107埋土

表２　調査区壁断面の土色一覧表（２）

№	土色・土質	備考
67	2.5Y4/1　黄灰　細粒砂～細礫 礫を少量含む　鉄分僅かに沈着	SP－107埋土
68	2.5Y5/2　暗灰黄　極粗粒砂 遺物を含む　鉄分沈着する	SP－107埋土
69	2.5Y4/1　黄灰　細～中粒砂と5Y7.1　灰白　シルトブロック	SP－108埋土
70	2.5Y4/1　黄灰　細粒砂　5Y5/6　オリーブの粘土ブロックを含む　鉄分沈着する	SP－109埋土
71	2.5Y5/3　黄褐　シルト 礫を含む　鉄分沈着著しい	SP－110埋土
72	10YR3/1　黒褐　細粒砂 少量の礫、遺物を含む　鉄分沈着する	古代以前の 遺構埋土
73	7.5Y5/1　灰　粗粒砂混じり粘質シルト 礫を含む	自然流路 （古代以前）
74	細礫	自然流路 （古代以前）
75	細礫　径５～10㎝程の礫を多量に含む	自然流路 （古代以前）
76	10YR5/2　灰黄褐 細礫 径５～10㎝の礫を多量に含む	河川堆積層 （古代以前）
77	10YR4/1　褐灰　細粒砂　2.5Y5/1 黄灰のブロック、遺物を含む　鉄分沈着する	河川堆積層 （古墳時代以前）
78	10YR4/1　褐灰　細～粗粒砂 鉄分沈着する	河川堆積層 （古墳時代以前）
79	2.5GY4/1　暗オリーブ灰 少量の遺物・礫を含む	河川堆積層 （古墳時代以前）
80	2.5Y5/1　黄灰　細～中粒砂 鉄分沈着著しい	河川堆積層 （弥生時代以前）
81	粗粒砂～礫　径３～20㎝程の礫を含む 鉄分沈着著しい	河川堆積層 （弥生時代以前）
82	粗粒砂～礫　径３～20㎝程の礫を含む	河川堆積層 （弥生時代以前）
83	粗粒砂～礫　径３～20㎝程の礫を含む 上端に微細な遺物を含む	河川堆積層 （弥生時代以前）
84	5Y3/1　オリーブ黒　中粒砂 鉄分沈着する	河川堆積層 （弥生時代以前）

め、調査区を東西に隔て、写真の撮影も分けて実施した。地山となるのは、遺物を含まない河川堆積の礫層である。トレンチ東端でのみ、弥生時代後期の土器を僅かに含む砂層（図４の77層）が地山直上にみられたが、最終的には河川堆積に伴うものであると判断できたため、掘削による調査を実施しなかった。

３．検出遺構

自然流路と溝　トレンチの西端では、最終的には近世以降に埋没したとみられる自然流路が検出され、全体的に北西に向かって地面が低くなっていく様子がみられた。自然流路の東端では、石を積み、杭を打つことで護岸されていたようである。石の間から染付の破片が出土したため、護岸自体は近世に入って以降に実施されたものであると言える。この流路の断面からは、古代以前より調査地付近を流れ続けていたようで、調査地周辺の河川堆積物を運び続けていたものと想定される。

自然流路のすぐ東では奈良時代の遺物を含む幅約２ｍの南北方向の溝（SD－101）が検出された。溝の底付近は流水に伴う細粒砂層であるが、上半のシルト層は細かな遺物や炭を含み、埋め戻された様子が観察できた。この溝の上面では、平瓦が数枚まとまって出土しており、瓦の示す時期は溝の埋没時期に近いものと想定される。また、溝の底では礫に混じりながら須恵器や土師器が多数出土した。

柱穴群１　トレンチ中央より東側では、古代より前の河川推積層と地山上で柱穴が複数検出された。南壁沿いで検出した柱穴群１（SP－103～SP－106）は、規模がいずれも幅80㎝程で形状は隅丸方形かそれに準ずる。柱間寸法は1.8m程である。柱の規模は明確ではないが径30～40㎝程であると想定される。SP－105の柱痕に接して20㎝大の礫が見つかっている。建物を形成するものであるか柵列を形成するものであるかは判断がつかなかった。柱穴内からは目立って遺物が出土していないが、一部に瓦や古代の須恵器、土師器片を含むことから、柱を立てたのが古代以降であると推定できる。弥生土器片も多数出土しているが、遺構のベース層に弥生時代後期の土器が包含されることから、掘削時の混入であると考えられる。

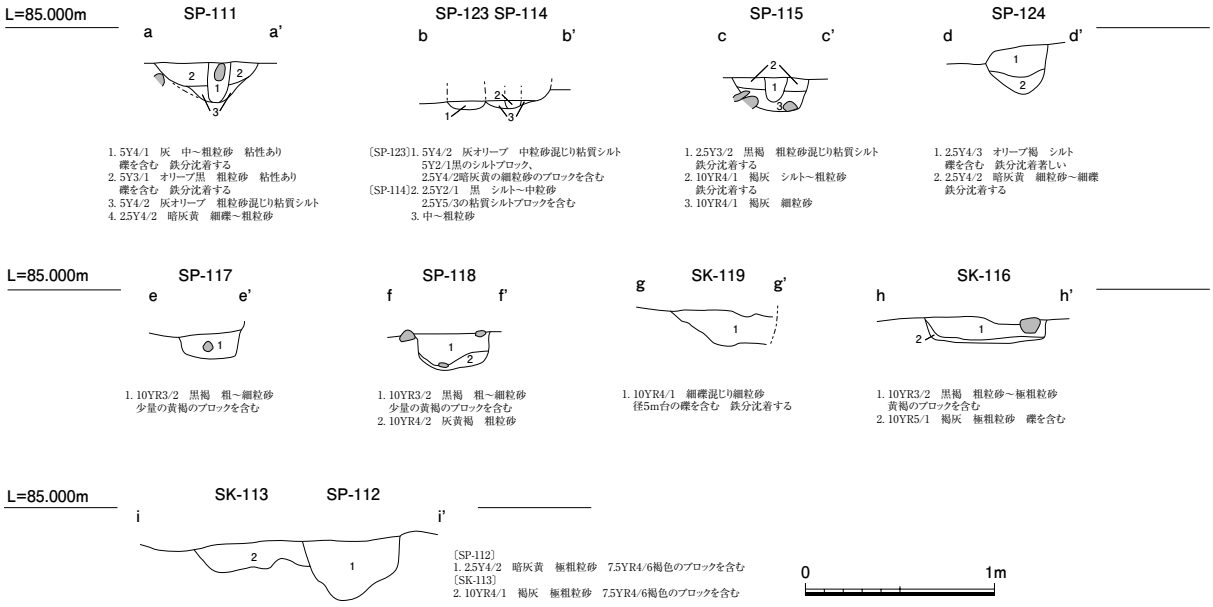


図６　遺構断面図（Ｓ＝1/40）

柱穴群２　柱穴群１の北側では東西に並ぶ柱穴群２（SP－111、SP－114、SP－115）が検出された。径40～60㎝の円形の柱穴で、いずれも径10㎝程の柱痕が残っていた。柱間寸法は平均2.1mである。柱の規模から、柵列である可能性がある。この柱穴群２は、そのすぐ北にある柱穴群３を一部破壊する。

その他の柱穴群　トレンチ北壁沿いでも柱穴が複数検出され、仮に柱穴群３とする（SP－107～SP110）。各柱穴の正確な形状については、遺構の前後関係や礫のために明確にすることができなかった。SP－109からは、平瓦の他、弥生土器の混入が見られる。トレンチ北東角に位置するSP－107は、SP－108～SP－110と異なり、掘り込みが深く土層もやや複雑である。中からは完形に近い丸瓦が出土している。これらの柱穴の規模は柱穴群１の柱穴と近いが、深さや堆積の様子が異なり、同一の構造物に伴うものかは不明である。

４．出土遺物

遺物は、溝や自然流路を中心にコンテナ数にして約６箱分が出土し、内容は瓦と土器が大半である。土器及び土製品は図７、瓦は図８～10の通りである。

土器・土製品　（１）はSP－104出土の土師器坏である。径の大きい浅い形状で、内面に暗文のミガキが残る。（２～６）はSP－109、SP－114、SP－123出土の土器である。（２）はかえりを持つタイプの須恵器坏Ｇ蓋である。（３）は段を持ち口縁が直立する形状の土師器坏である。（４～６）は遺構形成時の混入であると考えられる弥生土器である。（４）は高坏の坏部であると考えられ、脚部との接合部付近に厚みのある形状である。（５）は高坏脚部で、内・外面ともに精緻なミガキ調整が施されている。（６・７）は底部である。（８～14）はSD－101出土遺物である。（８）は須恵器坏Hの蓋で、先端に丸みを持ち薄手に作られている。（９）は須恵器坏Hで、かえりも受け部も矮小化している。(10)

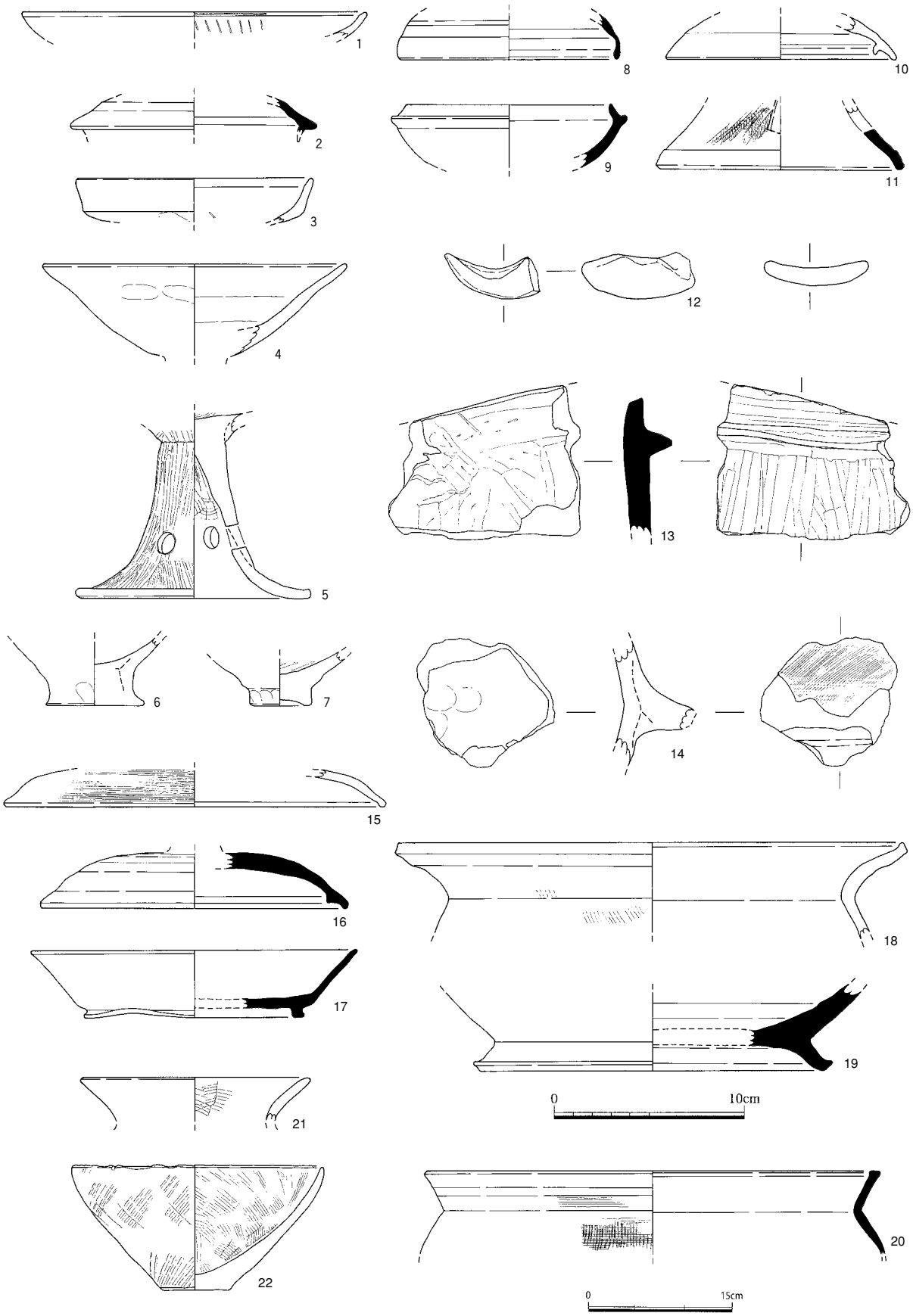


図７　調査区出土土器　土製品（S＝1/3、20のみS＝1/6）

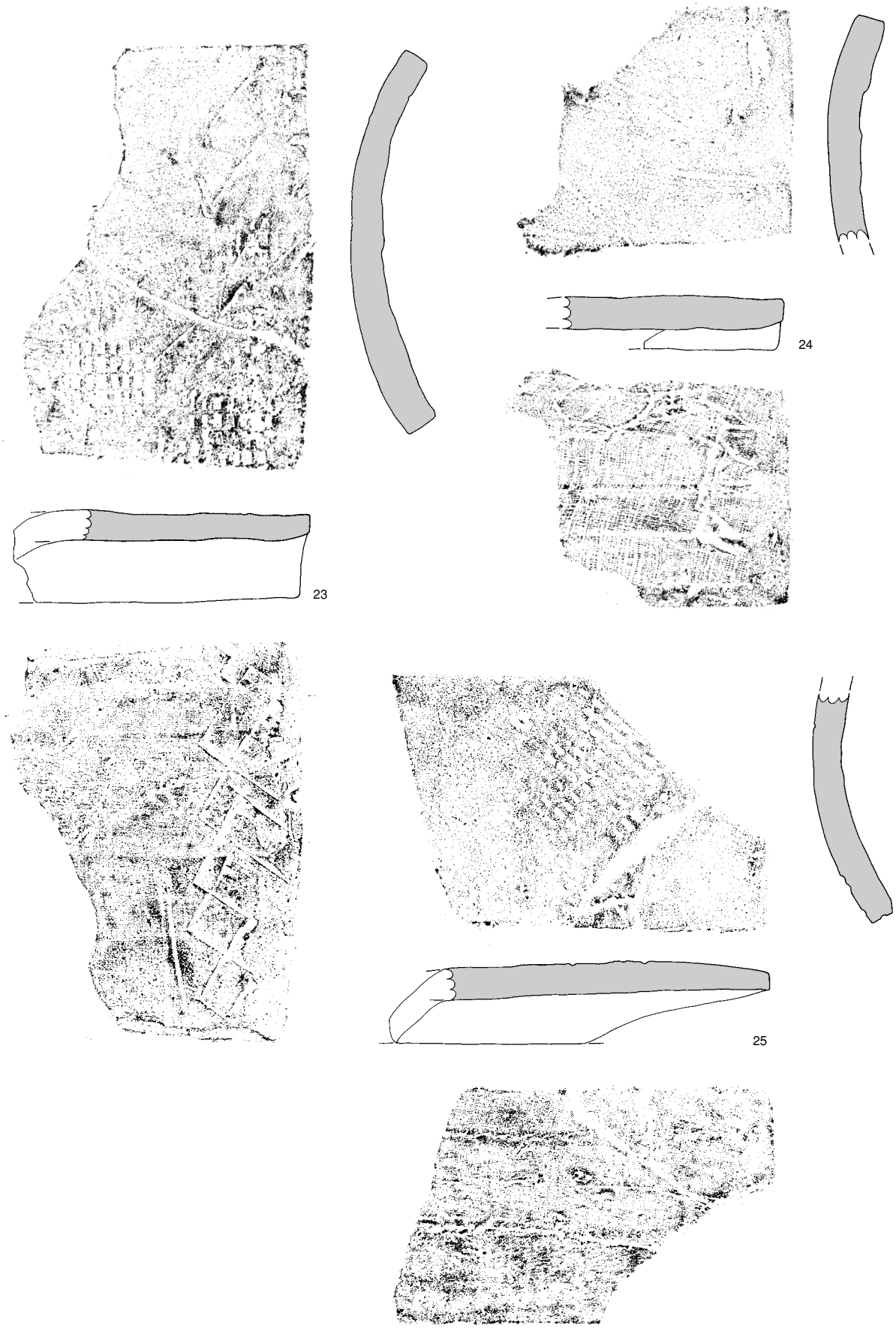


図８　調査区出土瓦①（Ｓ＝1/4）

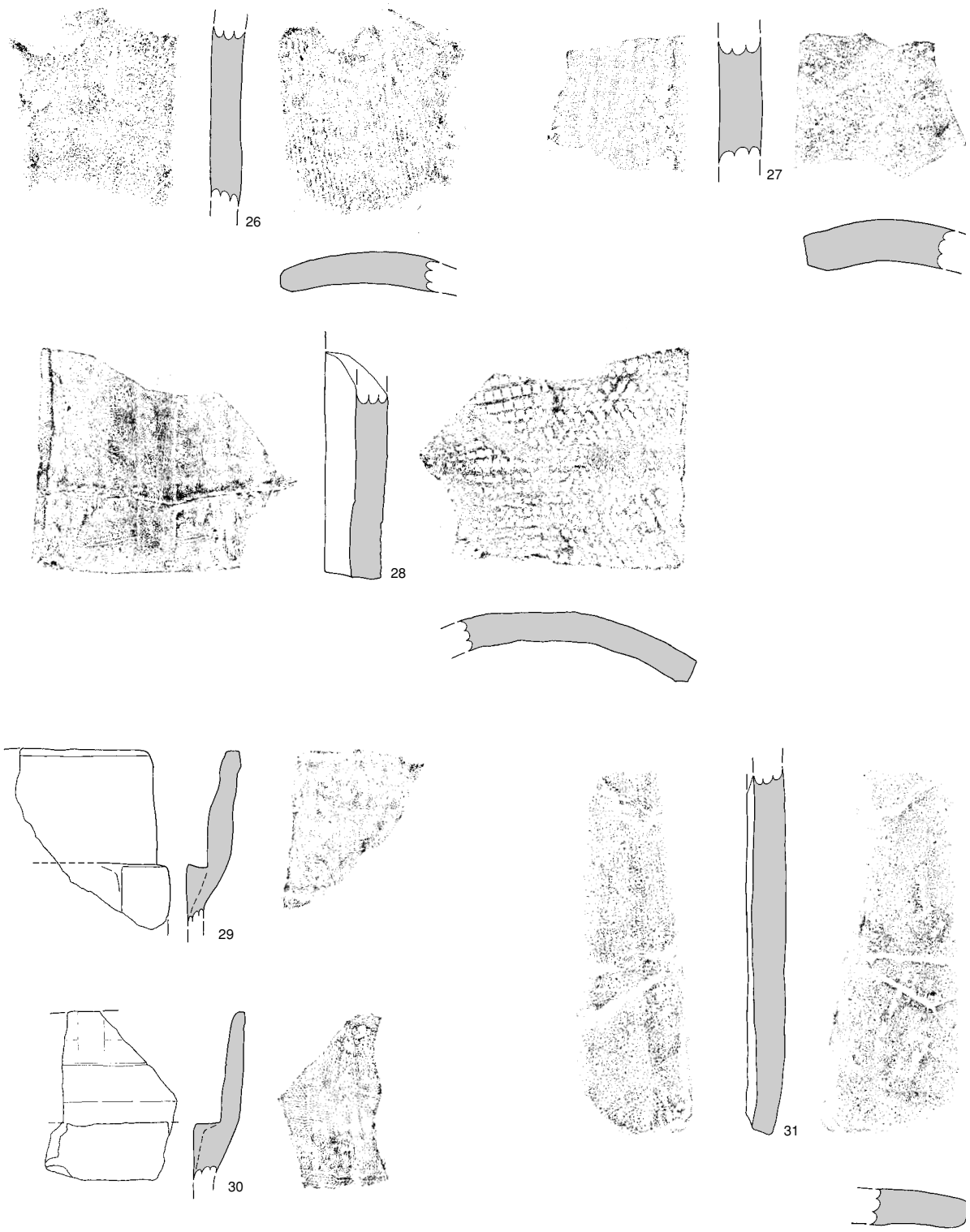


図 9　調査区出土瓦②（S＝1/4）

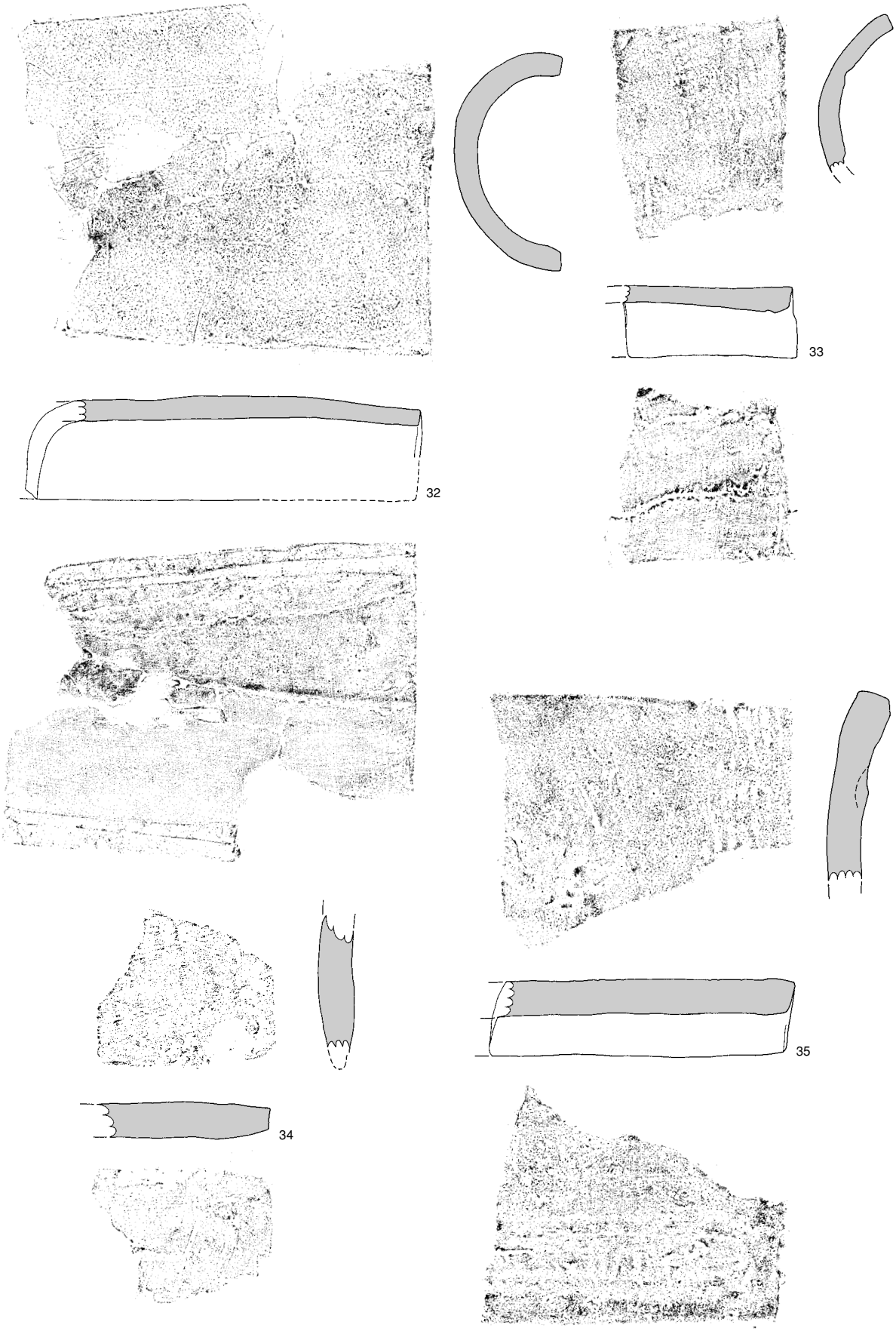


図10　調査区出土瓦③（S＝1/4）

は坏G蓋の形状であるが、土師質である。外面に回転ヘラケズリ調整が残る。（11）は須恵器の器台であると考えられ、裾部には方形透かしの痕跡が残る。（12）は土師器甕か壺の把手部である。（13）は須恵質の土製品であるが、用途は不明である。口縁付近の突帯の方向や口縁のヨコナデのラインと口縁が平行しないため、口縁は斜めに切り落とされているようである。（14）は形象埴輪の破片であると考えられるが、全体像は不明である。

（18・21）は西端の流路出土の土器である。（18）は土師器甕の口頸部で、強いヨコナデが施される。（21）は土師器甕の口縁部であり、内面にハケメ調整が残る。（15～17・19・20）は旧耕作土出土の土器である。（15）は外面には精緻なミガキ、内面にはナデ調整が施されており、土師器の坏蓋であると考えられる。（16）は須恵器坏蓋で、かえりが矮小化している。頂部には摘みが付いていたものと考えられる。（17）は須恵器坏Bで、焼きひずみが見られる。（19）は須恵器壺の底部で、短い脚裾部を持つ。（20）は須恵器の甕口縁であると考えられ、外面にのみタタキ目とカキメが残る。（22）はトレンチ東半にのみ展開する砂層出土の鉢である。外面はラセン状のタタキ調整で、内面にはハケメが残る。

弥生土器については大和Ⅵ様式内、古代の土器については飛鳥期内に収まるものと想定される。

瓦　今回の調査で出土した瓦は大半が平瓦ならびに丸瓦であり、瓦当は出土しなかった。以下、遺構出土のものを主体に記述していく。

（23～25）はSD－101最上層でまとまった状態で出土した平瓦である。（23）は凸面に格子目タタキ、凹面に布目が残る。凹面には広端に沿って斜め方向のタタキのような板の痕跡が残っており、最終のケズリ調整の前に端を整えた痕跡であるかと考えられる。凸面には、凹面のタタキ痕跡に対応する箇所に斜行する筋が残っている。（24）は凸面にはタタキが見られず、凹面には粗く一部が破れた状態の布目と（23）同様のタタキ痕跡が残る。凸面に斜行する筋は残っていないため、丁寧な調整が施されたものと考えられる。（25）は凸面に格子目タタキが、凹面には布目が残る。布目には綴紐の痕跡が残る。（26～30）はSD－101の埋土から出土した瓦片である。（26）は凸面に縄目タタキが、凹面には布目が残る。（27）は凸面に格子目タタキ、凹面に布目が残る。（28）は凸面に格子目タタキ、凹面に布目とケズリが残る。凹面には広端に平行するように紐の痕跡が残る。その部分にも布目が残り、布より内側のものであると判断できるため、模骨に付属するものである可能性がある。（29・30）は丸瓦で、いずれも玉縁式である。（30）の凸面にはケズリ調整の痕跡が残る。

（32）と（33）はSP－107出土の丸瓦である。（32）の凸面はケズリ調整やナデでタタキの痕跡は無い。凹面には布目が残り、端の方に布の綴紐の痕跡が残る。（33）の凸面はやや摩耗しているものの、格子目タタキの痕跡が残る。凹面には布目と布の綴紐の痕跡が残る。（35）はSP－109出土の平瓦である。凸面には所々に格子目タタキが残る。凹面には布目と粘土の接合痕が残る。

（31）は遺構面直上で精査の際に出土した平瓦である。凸面には格子目タタキ、凹面には布目が残る。（34）は遺構面直上の旧耕作土層内から出土した瓦片である。断面から、面取りが徹底されていることが分かる。凸面には縄目タタキが残るが、凹面の布目はケズリ調整でほとんど消されている。

５．まとめ

今回の調査では、安倍寺の西面大垣の延長が発見される可能性があったが、それらしい石垣状遺構は検出されなかった。大垣には溝が伴っていたことが過去の調査で分かっており、今回の調査区のすぐ南側で実施された第９次調査第３トレンチでは溝だけが検出されている。このたびトレンチの西で近世の河川に切られながらも検出した古代の溝は、位置・レベルの上では、第９次調査第３トレンチで検出した溝の延長である可能性がある。それに従えば、安倍寺の北限はさらに北に位置すると考えられ、第７次調査で指摘された北限の想定に逆らうものではない。

調査区の東半では、建物であるか柵列であるか判断がつかなかった柱穴群が複数みつかったが、想定される時期から、安倍寺に関連する遺構であることが想定される。（杉山）

〈参考文献〉
丸山香代・丹羽恵二2013『阿倍氏～桜井の古代氏族～』桜井市立埋蔵文化財センター
清水眞一1988『安倍寺遺跡　三本柿地区　発掘調査概報』桜井市教育委員会
清水眞一1990「国史跡安倍寺・宮西地区　発掘調査概要」『桜井市内埋蔵文化財　1989年度発掘調査報告書』（財）桜井市文化財協会
清水眞一1991「国史跡・安倍寺の周辺地区発掘調査概要」『桜井市内埋蔵文化財　1990年度発掘調査報告書』（財）桜井市文化財協会

表３－１　出土遺物観察表（１）

図版番号	出土遺構層位	器種器形	法量	側面調整	凹面の特徴・調整	凸面の特徴・調整
図８－23	SD－101 最上層	平瓦	最大長：20.6㎝ 厚さ：1.5～2.5㎝	ケズリ	布目→タタキか→ケズリ	格子目タタキ（瓦の狭端に平行）、布目
図８－24	SD－101 最上層	平瓦	最大長：16.3㎝ 厚さ：1.6～2.5㎝	ケズリ	布目→タタキか→ケズリ	ナデか
図８－25	SD－101 最上層	平瓦	最大長：21.9㎝ 厚さ：1.4～2.4㎝	ケズリ	布目→ケズリ	格子目タタキ
図９－26	SD－101	平瓦	最大長：13.4㎝ 厚さ：1.6～2.2㎝	ケズリ	布目	縄目タタキ
図９－27	SD－101	平瓦	最大長：9.4㎝ 厚さ：1.9～2.8㎝	ケズリ	布目	格子目タタキ
図９－28	SD－101	平瓦	最大長：17㎝ 厚さ：1.5～2.0㎝	ケズリ	布目→ケズリ	格子目タタキ
図９－29	SD－101	丸瓦 玉縁式	最大長：11.4㎝ 厚さ：0.9～2.4㎝	ケズリ	布目	ナデ
図９－30	SD－101	丸瓦 玉縁式	最大長：10.9㎝ 厚さ：0.8～2.3㎝	ケズリ	布目	ナデ、ケズリ
図９－31	遺構面上	平瓦	最大長：24㎝ 厚さ：1.4～2.1㎝	ケズリ	布目	格子目タタキ
図10－32	SP－107	丸瓦	最大長：28.8㎝ 厚さ：1.1～1.6㎝	ケズリ	布目	ナデ
図10－33	SP－107	丸瓦	最大長：12.7㎝ 厚さ：1.2～1.9㎝	ケズリ	布目→ケズリ	格子目タタキ、ナデ
図10－34	包含層	平瓦	最大長：13㎝ 厚さ：1.5～2.5㎝	ケズリ	布目→ケズリ	格子目タタキ
図10－35	SP－109	平瓦	最大長：21.2㎝ 厚さ：2.1～2.9㎝	ケズリ	布目→ケズリ	格子目タタキ

表３－２　出土遺物観察表（２）

図番号	地区 層位	器種 器形	法量	調整など	色調	胎土	焼成	残存率 （%）	備考
図７－１	SP－104	土師器 坏	口径：18cm 残存高：1.4cm	内面：ヨコナデ、暗文ミガキ 外面：ヨコナデ	内面：10YR8/2灰白 外面：10YR7/2にぶい黄橙	密	良好	口縁 約7%	
図７－２	SP－109	須恵器 杯蓋	最大径：12.8cm 残存高：1.9cm	内・外面ともに回転ヨコナデ	内・外面ともにN6/0灰	密	良好	最大径 約8%	
図７－３	SP－109	土師器 坏	口径：12.2cm 残存高：2.3cm	内面：ヨコナデ 外面：ヨコナデ、ケズリ	内面：7.5YR7/4にぶい橙 外面：7.5YR7/3にぶい橙	密	良好	口縁 約5%	
図７－４	SP－109,114,123	土師器 高杯？杯部	口径：約16cm 残存高：4.8cm	内・外面ともに 板ナデ、ユビオサエ、ヨコナデ	内・外面ともに 10YR7/3にぶい黄橙	やや 粗い	やや 軟質	杯部 17%	
図７－５	SP－109	弥生土器 高杯脚部	裾部径：11.9cm 残存高：9.6cm	内面：板ナデ、ヨコナデ 外面：縦ミガキ	内・外面ともに 10YR8/2灰白～2.5Y5/1黄灰	やや 粗い	やや 軟質	裾部 50%	円形透かし４方向から
図７－６	SP－109	弥生土器 底部	底径：5.1cm 残存高：3.5cm	内面：ナデ 外面：ナデ、ユビオサエ	内面：10YR6/4にぶい黄橙 外面：10YR6/2灰黄褐	密	良好	底部 70%	
図７－７	SP－106	弥生土器 底部	底径：3.4cm 残存高：2.8cm	内面：ハケメ、ナデ 外面：ナデ	内面：7.5YR7/6橙 外面：7.5YR7/4にぶい橙	粗い	良好	底部 100%	
図７－８	SD－101	須恵器 杯蓋	口径：11.2cm 残存高：2.4cm	内・外面ともに回転ヨコナデ	内面：N7/0灰白 外面：N6/0灰	密	良好	口縁 11%	
図７－９	SD－101	須恵器 杯身	口径：10.6cm 残存高：3.3cm	内・外面ともに回転ヨコナデ	内・外面ともにN7/0灰白	密	良好	口縁 15%	
図７－10	SD－101	土師器 杯蓋	口径：9.8cm 残存高：2.2cm	内面：回転ヨコナデ 外面：回転ヨコナデ、回転ケズリ	内面：5YR8/6橙 外面：5YR6/4にぶい橙	密	やや 軟質	口縁 25%	
図７－11	SD－101	須恵器 器台	裾部径：12.4cm 残存高：3.3cm	内・外面ともに回転ヨコナデ	内面：N7/0灰白 外面：N6/0灰	密	良好	裾部 13%	方形透かしあり 櫛描波状文あり
図７－12	SD－101	土師器 把手	－	ユビオサエ、ナデ	2.5Y8/2灰白	密	やや 軟質	－	

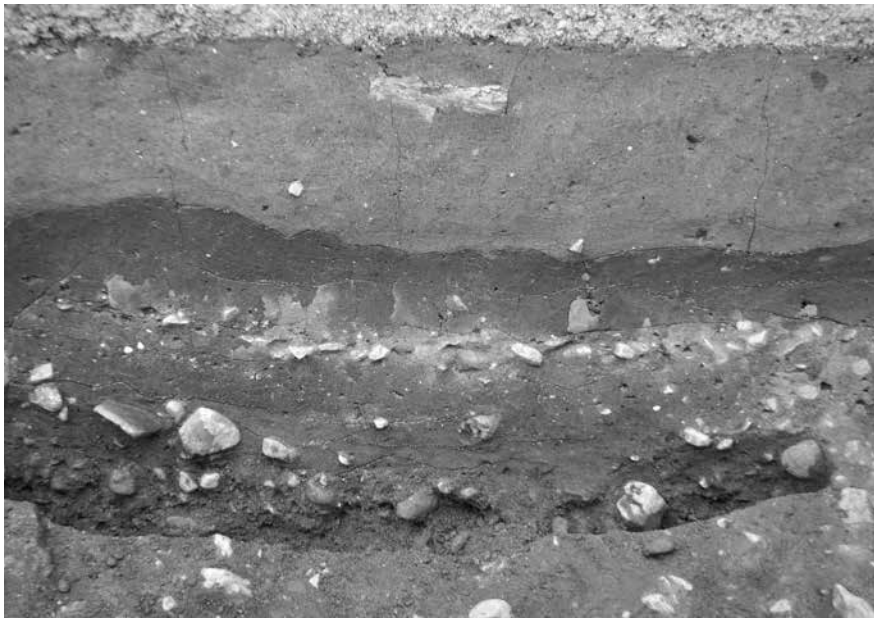
表３－３　出土遺物観察表（３）

図番号	地区 層位	器種 器形	法量	調整など	色調	胎土	焼成	残存率 （%）	備考
図７－13	旧耕作土	須恵器 用途不明	－	内面：ケズリ 外面：ナデ	内・外面ともにN6/0灰	やや 粗い	良好	－	
図７－14	SD－101	形象埴輪	－	内面：ユビオサエ、ナデ 外面：ナデ、ハケメ	内面：2.5YR6/8橙～10YR8/2灰白 外面：2.5YR6/6橙～7.5YR8/2灰白	粗い	良好	－	
図７－15	旧耕作土	土師器 蓋	口径：20㎝ 残存高：1.8㎝	内面：ヨコナデ 外面：ヨコナデ、ヨコミガキ	内面：7.5YR7/4にぶい橙 外面：5YR6/6橙	密	良好	口縁 14%	
図７－16	旧耕作土	須恵器 杯蓋	口径：16㎝ 残存高：2.9㎝	内面：回転ヨコナデ 外面：回転ヨコナデ、 回転ヘラケズリ	内面：N7/0灰白 外面：7.5Y7/?灰	やや 粗い	やや 軟質	50%	
図７－17	旧耕作土	須恵器 杯	口径：17㎝ 底径：11.4㎝ 残存高：3.5㎝	内・外面ともに回転ヨコナデ	内・外面ともに7.5YR6/1灰	密	良好	20%	
図７－18	自然流路	土師器 甕口縁	口径：26.4㎝ 残存高：５㎝	内面：ナデ、ヨコナデ 外面：ハケメ、ヨコナデ	内面：10YR7/3にぶい黄橙 外面：10YR7/4にぶい橙	密	良好	口縁 10%	
図７－19	旧耕作土	須恵器 壺	底径：18㎝ 残存高：4.6㎝	内・外面ともに回転ヨコナデ	内・外面ともにN7/0灰白	やや 粗い	良好	底部 25%	
図７－20	旧耕作土	須恵器 甕	口径：約37㎝ 残存高：９㎝	内面：回転ヨコナデ 外面：回転ヨコナデ、タタキ、カキメ	内・外面ともにN7/0灰白	密	良好	－	
図７－21	自然流路	土師器 甕口縁	口径：9.6㎝ 残存高：2.3㎝	内面：ヨコハケメ 外面：ヨコナデ	内面：10YR7/3にぶい黄橙 外面：10YR6/3にぶい黄橙	密	良好	口縁 約７%	
図７－22	古代遺構 ベース層内	弥生土器 鉢	口径：12.9㎝ 底径：3.5㎝ 残存高：6.4㎝	内面：ハケメ 外面：タタキ	内面：7.5YR6/3にぶい褐 外面：10YR7/4にぶい黄橙	やや 粗い	良好	約25%	

調査区西半
遺構検出状況
（西より）

調査区東半
遺構検出状況
（東より）

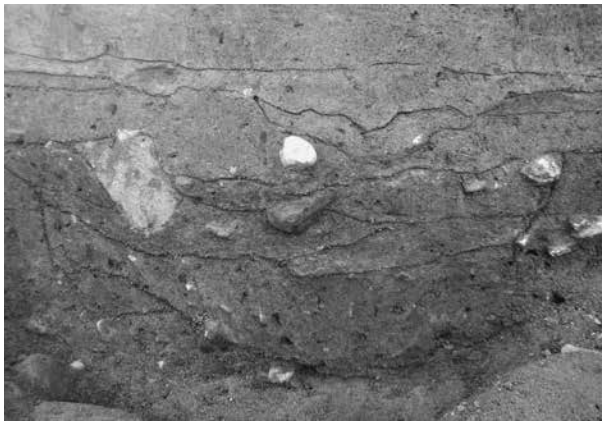
SD－101最上層
遺物出土状況
（北より）



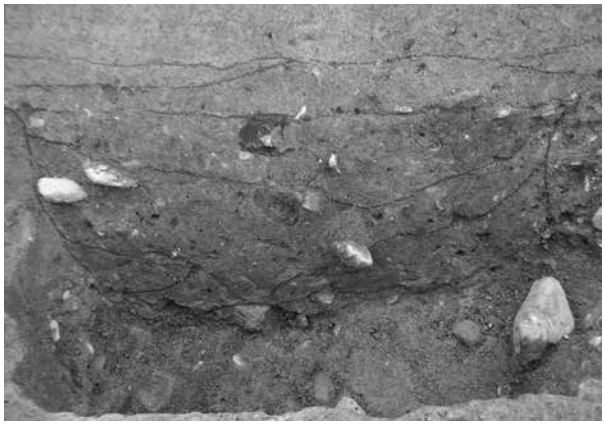
SD－101
土層断面（南より）

調査区西半
遺構完掘状況
（西より）

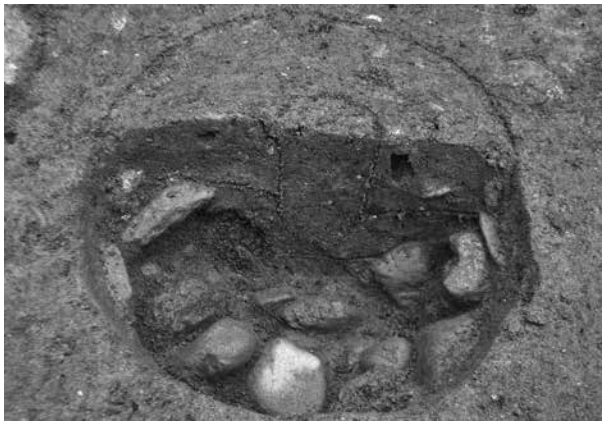
調査区東半
遺構完掘状況
（東より）


SP－103 土層断面（北より）

SP－104 土層断面（北より）


SP－105 土層断面（北より）

SP－111 土層断面（西より）


SP－115 土層断面（北より）

SP－117 土層断面（東より）

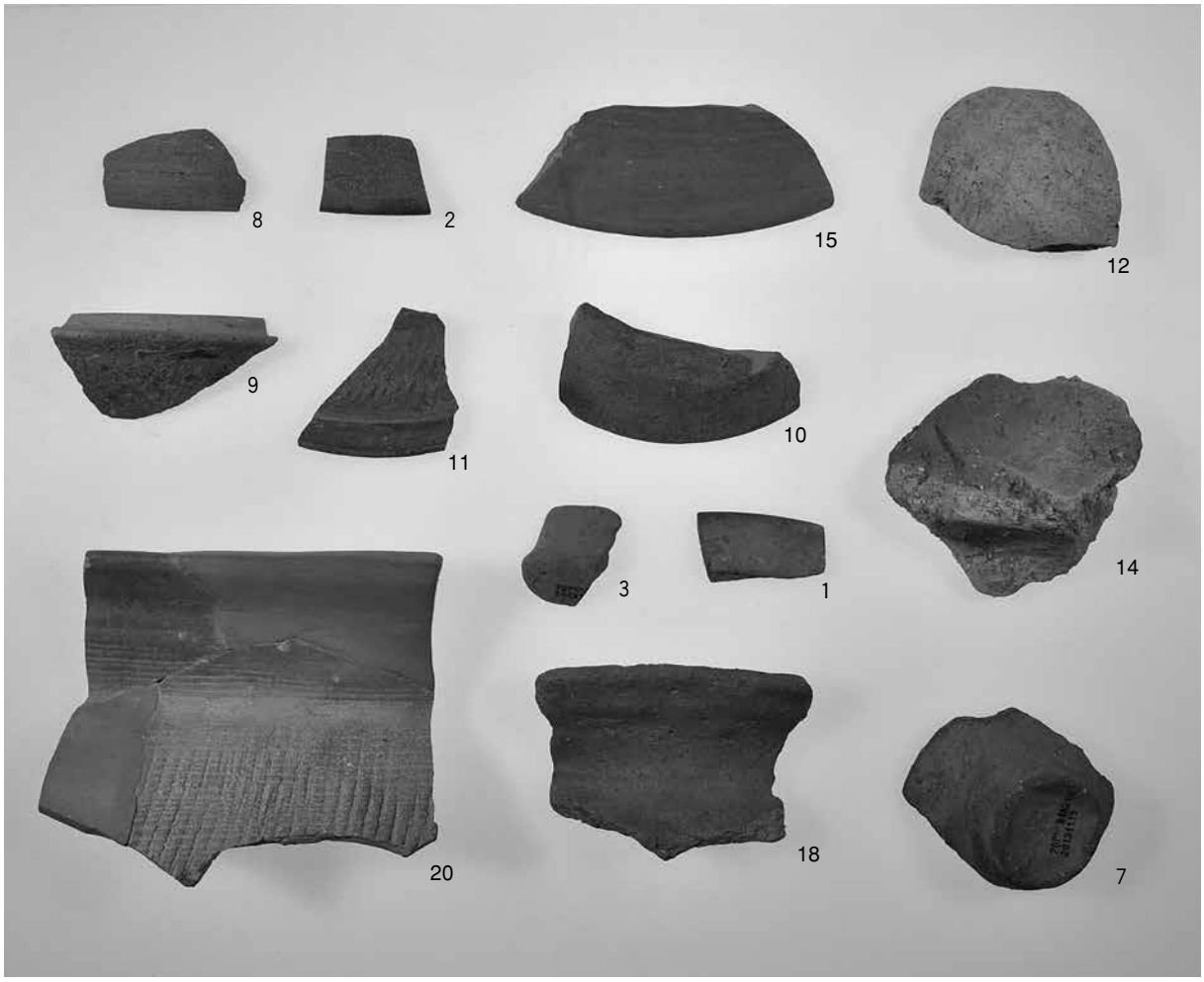
SP－118 土層断面（東より）

SK－119 土層断面（北西より）

SK－113・SP－112 土層断面（北より）

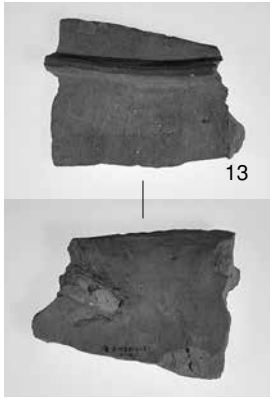
SK－116 土層断面（東より）

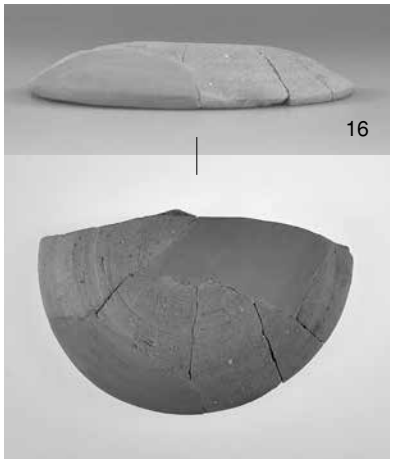
調査区全景
（東より）


8
2
15
12
9
11
10
14
3
1
20
18
7

17

19

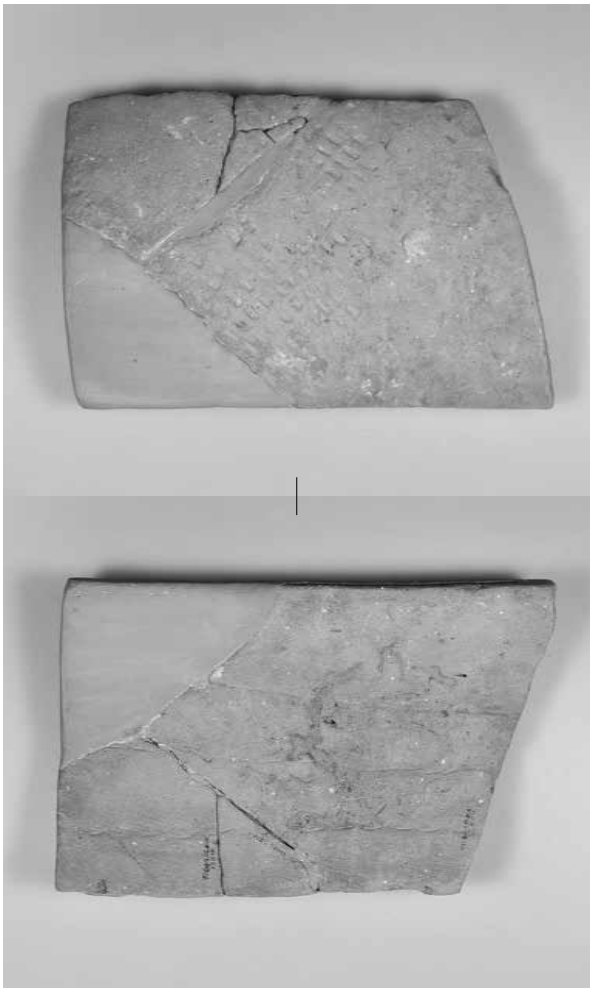

13


16

5

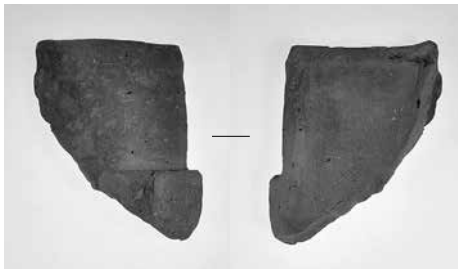
22

23

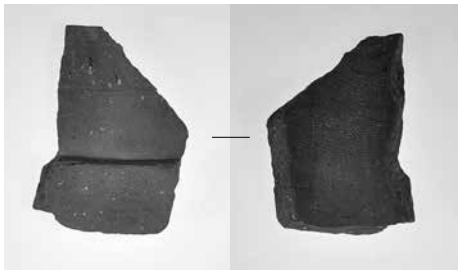


25

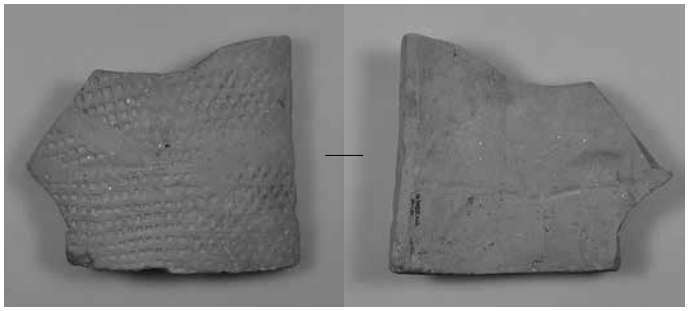
24



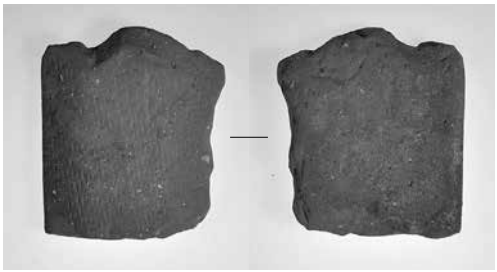
29



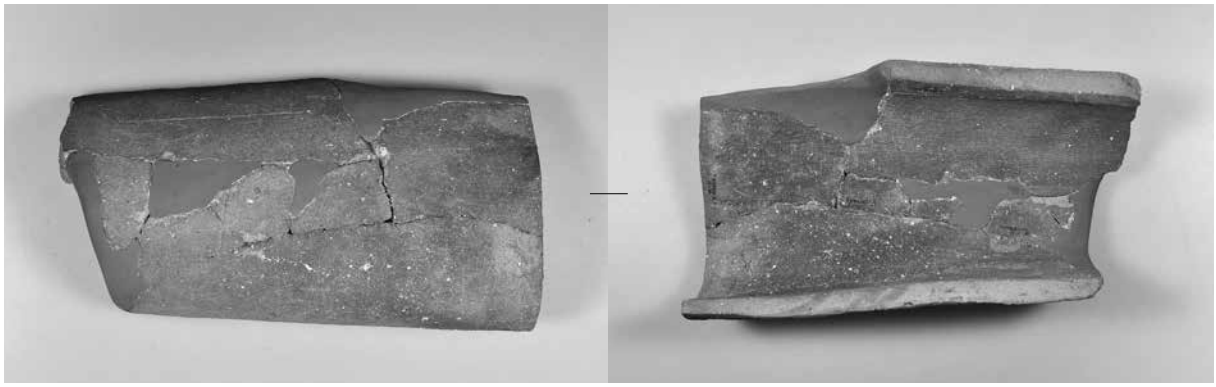
30



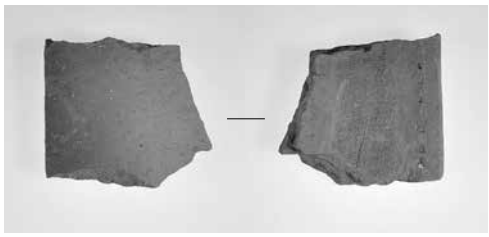
28



26

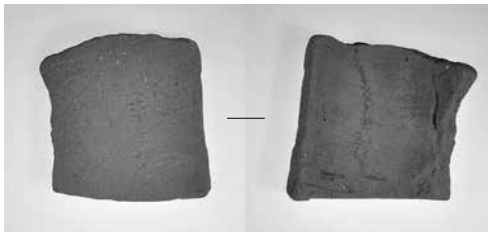


32

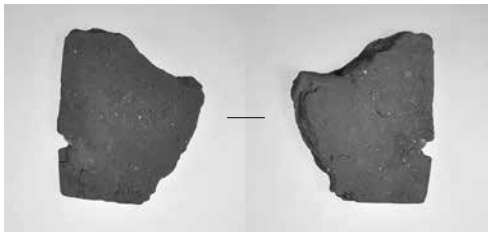


27

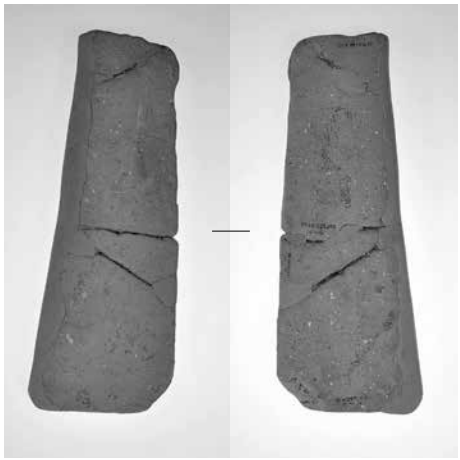
35



33



34



31

報 告 書 抄 録

書　　名	桜井市　平成25年度国庫補助による発掘調査報告書
副　書　名	
巻　　次	
シリーズ名	桜井市埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	第42集
編 著 者 名	杉山真由美、三沢朋未（編集）
編 集 機 関	桜井市教育委員会文化財課
所　在　地	〒633-0074　奈良県桜井市大字芝58-2　TEL 0744-42-6005　FAX 0744-42-1366
発 行 年 月 日	2015年３月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
安倍寺跡 第21次	桜井市安倍木材団地１丁目12-16、-17、-18	292061	14B－0028－A	34°30'07"	135°50'18"	20131106～20131130	60㎡	個人住宅建築に伴う発掘調査

所 収 遺 跡 名	種　　別	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特 記 事 項
安倍寺跡第21次	寺院跡	柱穴群、溝	瓦、土師器、須恵器	

桜井市埋蔵文化財発掘調査報告書　第42集

桜 井 市
平成25年度国庫補助による
発 掘 調 査 報 告 書

発　行　桜　井　市　教　育　委　員　会
文　　化　　財　　課
〒633-0074　奈良県桜井市大字芝58－２番地
TEL　0744－42－6005
FAX　0744－42－1366

年月日　平成27年３月31日

印　刷　株　式　会　社　明　新　社
〒630-8141　奈良市南京終町３－464